

浦安・福田地区 人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
岡山市	南区第一地域(浦安・福田地区)	令和4年9月30日	—

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	297ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	179ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	114ha
i うち後継者未定(回答有)の農業者の耕作面積の合計	13ha
ii うち後継者について不明(回答無)の農業者の耕作面積の合計	49ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	52ha
(備考)	

2 対象地区の課題

<p>回答者のうち65才以上の農業者は74%、また、75才以上の農業者は回答者の35%であり、今後、農業者の高齢化が進むと見込まれる。また、回答者のうち、65才以上で後継者がいない・未定の人数が35%で、その面積は回答者の耕作面積全体の21%にのぼるなど、後継者不足が懸念される。</p>
<p>中心経営体が今後引き受ける意向のある耕作面積(52ha)は、回答のあった65才以上で後継者なし・未定の農業者の耕作面積(37.8ha)を上回っている。このことから、耕作放棄地が急激に増えることはないと思われるが、中心経営体が耕作する農地が複数個所に分散し、農作業の効率が悪いことが課題として挙げられる。今後、中心経営体への農地集約化を進め、飛び地解消などの効率化を図ることが求められる。</p>
<p>農業を将来も継続できることが大切であり、副業、兼業で農業の魅力を感じられるような環境整備が必要。大規模だけではなく、中・小規模の農業従事者の収益が増える、魅力ある施策が必要。</p>
<p>農業を続けたいが、生産コストが高いことや、全ての作業をこなすことが難しいため、継続していくことに不安がある耕作者が一定数おり、地域で作業を引き受ける等して補うなどの検討が必要。</p>
<p>新規参入で新たに借り受けるのが困難な状況があり、経営母体同士での相互協議も耕作面積が少ないと難しい。他品目や収益性の高い作物などにも取り組む意向のある耕作者もいるが、新たな販路確保なども課題である。</p>
<p>市街化調整区域内で農振農用地も多くあるが、近年では転用による宅地化が進んでおり、隣接する耕作地では農作業に支障が出ているとの意見もある。また、将来農地を売却・転用を希望・検討する者も一定数いるなど、多様な意向が混在しており、将来的な農地利用の展望が描きにくい。農地利用のしにくい地区で農業従事するメリットを打ち出す施策が必要。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>地区内の中心経営体である認定農業者(個人・法人)は、後継者がいない・未定の農地利用を積極的に検討するなど、集約化の取り組みを推進する。</p>
<p>地区内の農業者に対して、農業委員会の広報等を通じ、農地貸付には中間管理機構を活用することや、農地集約の目的等を周知・啓発し、担い手となる中心経営体への農地集約を推進していく。</p>
<p>中心経営体は、現在分散している農地の集約化や新規中心経営体の農地増について、中心経営体同士での話し合いや意見交換会等の相互協議を行い、農地集約などについて効果的な手法等を協議・検討する。</p>